

(傍線部分は改定部分)

改 正 後	現 行
<p>1. 畑のほ場整備の変遷と役割～21. 暗きょ排水計画の検討 (略)</p> <p>22. 土地利用形態とかんがい方法 (略)</p> <p>22.1 普通畑及び牧草・飼料畑 (略)</p> <p>22.2 樹園地 果樹園や茶園等の樹園地では、固定式スプリンクラーを採用している例が多く、防除、施肥、営農用水等の多目的利用として使われている事例もある。一方、階段園地では定置パイプかんがいも適応可能である。また、条植の樹（わい化リンゴ）の場合や水源が限られた樹園地の場合は点滴かんがいの採用もみられる。 <u>なお、温州みかんを中心としたカンキツの新しい栽培技術として、地表を防水・透湿性マルチシートで覆って、さらに、その下にドリップチューブを設置して、かん水・施肥を行うことにより、水分・栄養状況を天候に関わらず人為的に制御する栽培方式が導入されている。この栽培方法は「マルチ」と「ドリップかんがい」の名称の一部をとって「マルドリ方式」と呼ばれ、適度な水分ストレス管理による果実の品質向上や苗木の生長促進、かん水・施肥労力の低減、マルチによる抑草効果で防除作業の省力化に効果を発揮している。²⁾</u></p> <p>参考文献</p> <p>1) 農林水産省農村振興局：土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水（畑）」、農業土木学会、pp. 171～175（2015） 2) 森永邦久・島崎昌彦・草場新之助・星典宏：カンキツ生産の新しい技術・マルドリ方式－その技術と利用－、(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター、pp14～16（2005）</p> <p>22.3 施設畑 (略)</p> <p>23. 畑地における土層改良～27. 工事後のほ場条件の変化 (略)</p>	<p>1. 畑のほ場整備の変遷と役割～21. 暗きょ排水計画の検討 (略)</p> <p>22. 土地利用形態とかんがい方法 (略)</p> <p>22.1 普通畑及び牧草・飼料畑 (略)</p> <p>22.2 樹園地 果樹園や茶園等の樹園地では、固定式スプリンクラーを採用している例が多く、防除、施肥、営農用水等の多目的利用として使われている事例もある。一方、階段園地では定置パイプかんがいも適応可能である。また、条植の樹（わい化リンゴ）の場合や水源が限られた樹園地の場合は点滴かんがいの採用もみられる。</p> <p>参考文献</p> <p>1) 農林水産省農村振興局：土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水（畑）」、農業土木学会、pp. 171～175（2015）</p> <p>22.3 施設畑 (略)</p> <p>23. 畑地における土層改良～27. 工事後のほ場条件の変化 (略)</p>